

## 古代の人びとの暮らしに迫る \* はじめに

### 地域色豊かな庶民の生活を再現

古代の人びとは、豊かな自然に恵まれた島根県を舞台に、どのような生活をしていただろうか。各地で行われている発掘調査の成果をひもといていくと、豊かな生活を求めて、さまざまな努力をしていた古代人たちの姿が見えてきます。

本書は、古代の人びとがどのような活動をし(生業)、どのような家に住み(住居)、どのような道具を使っていたかを探り、古代人の「暮らし」に迫ったものです。地域の特徴を生かした古代人のシンブルなライフスタイルと数々の工夫は、現代の暮らしを見つめるうえで、新たな視点を与えてくれるのではないのでしょうか。なお本書では、衣類関係の遺物は発掘調査では見つかりにくいいため、いわゆる「衣食住」のうち「食」と「住」にウエイトをおきました。

### 道具から古代人の生活や地域間の交流を探る

原始時代から現代まで、人類は実にさまざまな道具を開発し、使用してきました。本書ではその流れを、ひと目でわかる一覽表にまとめてみました。また、道具の中でもとくに土器の交流を探ることで、古代の地域間の交流を明らかにしました。私たち現代人の想像をはるかに超えるダイナミックな古代人たちの交流を、感じとっていただければ幸いです。

### 古代人の生活を物語風に表現

古代人の暮らしぶりを物語風に表現してみました。縄文時代にタイムスリップしたら、どのような生活が待っているのでしょうか。また、昔の住居の住み心地はどうでしょうか。そんなことを考えながら、古代人の暮らしに思いを馳せてみてください。

## 目次

古代の人びとの暮らしに迫る	2
生業を探る 狩猟・漁労・採集から米作りの生活へ	3
狩猟・漁労・採集に頼る暮らし	4
縄文時代の暮らしを発掘する	4
「ラム シシミ」貝塚が語る食卓の今昔	8
「ラム 島根県で発見された縄文遺跡	9
山々に囲まれた生活	10
「ラム 縄文食に挑戦 ドングリのお菓子を作ろう	13
ある弥生人一家の一日	16
米作りが伝わってからの生活	14
田んぼとともに「1000年	18
住居を探る 住居の起源と変化を追う	21
古代の住居を発掘する	22
竪穴住居	22
掘立柱建物	23
住居跡を掘る	24
「ラム 炉からカマドへ	25
古代の住居で暮らししてみたら	26
「ラム 天然の住居・洞窟	26
民家を訪ねて	28
道具を探る 技術革新の歴史をたどる	30
ひと目でわかる道具の歴史	32
焼き物の変遷を追う	34
道具が語る古代の交流	38
あとがき 現代の暮らし再発見	39

# 生業を探る

## 狩猟・漁労・採集から米作りの生活へ

一万年近く続いた縄文時代。それは、自然を相手にする狩猟・採集中心の時代でした。発掘調査などによって島根県内でも、この時代に生きた人たちの生活の跡が各地で見つかっています。

この章の前半では、海辺の暮らしを八束郡鹿島町の遺跡を例に、山の暮らしを美濃郡匹見町の遺跡を例に、縄文人の狩猟採集生活に迫ります。

やがて縄文時代の終りになると、大陸から米作りが伝わります。米作りは多くの労働力と、耕作に適した土地を必要としました。章の後半では、平野部で見つかった弥生時代の遺跡をもとに、

今日までの米作りの歴史をたどります。

